



2026年2月6日更新(第1版)

TYCレース委員会

TYCレース2026 コミッテーマニュアル

1. 事前準備

コミッテーパー予定艇(以下CBという)は、また当番レースの前月レース終了後、担当レースのレース委員長並びに前月レースのCBと打ち合わせを行い、下記の確認及び準備をおこなう。

① レース備品の確認

次回レースに必要な装備が揃っていることの確認(必要備品は、別途備品リスト確認のこと)
国際VHFはCB艇所有を利用する(ない場合は別途相談)

② 当番レースのメンバー(合計10名～)確保

陸上1～2 本部艇5～6 作業・監視艇(以下マークボート)3～4 CB艇担当艇間で人数確認。

- 帆走委員長を確認【 _____ 】
- 備品確認責任者を確認【 _____ 】
- 本部艇・マークボート(仮でもいいので決めておく)【艇名: _____ 】

※ショートオフショアはマークボート、監視艇と(スタート時の)本部艇の計3艇体制。

【レース当日手順】

2. 集合準備(以下セミロング・通常ブイ回りとも共通)

集合時間:8:00 レース委員及びコミッテーパー主要メンバーが集合して下記確認
(スタート時刻が通常より遅い場合は、適宜後ろ倒し)

① 役割分担:乗艇する艇、役割の確認

② PC・非常時連絡用携帯電話・ビデオの引渡し・作業内容の確認

- 備品受領(レース委員会管理品)
下記の備品は、レース委員会各備品の担当者から、直接借り受ける。
 - 陸上海上本部用専用電話(井上)・成績集計用PC(堀内)・撮影用ビデオ(宋)
出艇リスト(藤田)、国際VHF(ハンディで可)が準備できない場合は、別途事前に相談
- 返還時:電子機器類は直接返還すること

③ 上・下・フィニッシュマーク(通常レース時)・搭載備品の準備

④ 受付・陸上本部設営(8:30までには受付開始)

- アトリウムに机椅子・ホワイトボード準備
- 配布物:(緊急用)連絡カード・リコールNo.旗(出場レース番号旗)(4クラス)(帰着時に受領)
(年間エントリー艇はレース番号旗・連絡カード授受不要)

⑤ 本部用書類確認:申請書類(写し)・本部用手順連絡先等・事故受付票・帆走指示書・コミッテーパーマニュアル(本部艇・陸上本部・マークボート各々に準備)

⑥ 海況の確認:当日気象状況が次の条件に該当する場合にレースを実施する。

- 風速15M/S未満 波高1.5M未満 見通し1000m以上

3. 受付・艇長会議手順

① 出艇申告

参加者名簿受領(夢の島艇)、出艇リストにチェック。

都度参加艇は、レース番号旗・連絡カードを渡す。

(年間エントリー艇はレース番号旗・連絡カード授受不要)

② 艇長会議(帆走委員長が司会進行)

・コース説明/表彰式について

※セミロング:スタート手順(スピン掲揚)やタイムリミットが違うことに注意

・その他注意事項

1. 安全優先・緊急時の連絡
2. 危険地域:若洲ヨット訓練水域・三枚洲進入禁止・荒川河口浅瀬注意
3. 他の船舶(本船・漁船・若洲ディングー等)航行注意
4. レース終了後速やかな帰着申告・レース番号旗返却(都度エントリー)
5. 結果発表・表彰式(3レース毎)等の案内

③ 関係各所への連絡

- ・ 海上保安庁へ行事実行の連絡 東京湾海上交通センター TEL:045(225)9140
- ・ 東京海上保安部 TEL:03(5564)2023
- ・ 東京海上保安部へ出艇リストを送る FAX:03(3599)0922 (マリーナに依頼)
- ・ 千葉海上保安部 TEL:043(242)0013

④ 陸上本部:TYCクラブルームへ移動。陸上担当者は本部艇と交信可能状態(携帯電話)で待機。

【海上での作業手順】

4. 海上本部・警戒艇

① 海上本部・監視艇:申請書の位置を守ること

- ・ レーススタートの位置(通常):(海上保安部への申請書参照)

ブイ回りでのレース海面(N35° 35' 20" E139° 53' 00" を中心とした半径1.0マイルの海域)

セミロングのスタート(N 35° 36' 54" E 139° 52' 42")

セミロングの回航マーク(N 35° 31' 18" E 139° 53' 37")

② 海上エントリー:本部艇は上記海域に到着したらアンカーリングを行った後、L旗とY旗を掲揚し、レース参加艇を召集し、本部艇左サイドをスターン側からバウ側に進行させ、海上エントリーを受付ける。なお、予定されたスタート時間が遅れそうな場合はAP旗を掲げておく。

AP旗



- ・ (風が安定していない場合は、海上エントリーしてから本部艇を動かすことも可能)
- ・ 海上エントリーと出艇リストとの確認を行ない、艇長会議以降の変更事項がある場合はハンドマイクおよびホワイトボードを使い、レース参加艇に通告掲示する。
- ・ ライフジャケット等の個人用浮力体の全員着用を確認し、着用がない場合は口頭で注意しそれでも従わない場合は抗議の対象とする。

③ ブイ設置:レース海面で本部艇の位置確保後、VHFで監視艇に指示、スタートマーク(下マーク)を設置

- スタートラインはスタートを遅らせてもいいので、極カイーブンになることを心がけること
(通常レースは風に対して90° ショートオフショアは回航ブイの方向に対して90°)
- スタートライン長は同時スタート最大艇数x10m x 1.2~1.5を目途(約200m程度)
- 監視艇は本部艇の帆走委員長の指示に従い、勝手にブイを落とさないこと。
ブイは、アンカーをしっかりと効かせた後、ラインをブイに付け替え、流れないようにする。
マークボート上での作業で、マークボートを破損しないよう十分注意する。
- スタートラインが決まったら、監視艇(マーク艇)は上マークまたは回航マークを打つに行く。
- 上マークまでの方角・おおよそ距離をホワイトボードに記載して艇上で掲示する。
- ショートオフショアの回航マークは下記 風が弱かった場合は、スタートラインをまず沖にもつていく。(回航地点は基本変えない)
(N 35° 31' 18" E 139° 53' 37" 回航マーク)
- 上マークと下マーク距離の目安は下記。 気象や海況状況で帆走委員長が最終決定する。
 1. 平均風速1m/秒以下 = 待機
 2. 平均風速2m/秒 = 約0.8マイル
 3. 平均風速3m、4m/秒 = 約1.0マイル
 4. 平均風速5m、6m/秒 = 約1.3マイル
 5. 平均風速7m/秒以上 = 約1.5マイル

※短めにする傾向あり。短く打つよりは、長めに打って、風が弱ければレグ短縮が基本
※上記は5~6レグの場合。4レグレースをする場合は長めに設定すること(上記の3割増し)

5. 海上作業(スタート)

- ① 帆走指示書を参照し、旗の掲揚降下および号砲を正確に行なうこと。
- *L旗の掲揚は号砲1声、降下は必要なし。
 - *AP旗の掲揚は号砲2声、降下は1声。
 - リコール(号砲1声)およびゼネラルリコール(号砲2声)時については号砲後、直ちにX旗(リコール)または第一代表旗(ゼネラルリコール)を掲げる。
*リコールの場合、号砲は必ず鳴らさなければならない。
※リコール確認:帆走委員長。TYCエンサイン旗の下からアウターコース側サイド見通し線
- ② ショートオフショアの場合、2艇目の監視艇はリミットマークから監視、スタート後、艇団の後方より監視で伴走。途中、回航マーク近辺が見える場所で待機。
- ③ スタート延期、レースの中止、コース短縮、コース変更は帆走委員長の判断で決定する
- 判断に迷った場合はレース委員長と連絡協議する。(特に事故等による中止)

6. 海上作業(コース短縮・変更)

- ① コース短縮:
- 風が途中で弱くなってきた場合、このままではあるクラス全部がDNFになると思われた場合には、コース短縮を行う (S旗 号砲2声)
 - ショートオフショアの場合は回航マーク地点で行うだけとなる
- ② コース変更
- 風向が大きく変化(30度以上)振れた場合に、可能であればコース変更を行う
変更したマークに向かう前のマーク回航前に、C旗・反復信号・次のコース掲示を行う

S旗



- ショートオフショアでは行わない
- ③ レース中止
- 下記のようなケースはレースを中止する
 1. レース中に外部からの援助(救急車・海上保安庁等)の援助を求めるような場合
 2. 開催基準を超える海況になってきた場合で、まだフィニッシュしている艇がない場合
(クラス別に判断し、中止することも可能) N旗 またはN・A旗(A旗の上にN旗)

7. 海上作業(フィニッシュ)

- ① 流し込みフィニッシュでなく、フィニッシュラインを作成する場合は、上マーク付近に移動 上マークから100m程度、風向真上にフィニッシュラインを設定する。
- ② ポート側にフィニッシュマーク、スターボード側に本部艇を配置し、30m～50m程のライン長さ。
※フィニッシュラインはスタートラインより短くするのがコツである。
※流し込みフィニッシュでも本部艇を移動し、距離を短くすることも推奨。
- ③ フィニッシュ時刻(時・分・秒)をTYCLレース着順リストに記入する。

8. 成績作成

- ① 可能ならばPCに帰港までに時間を打ち込む。帰港後 成績表をレース委員と協力して作成する

9. 帰港後の作業

- ① 帰着申告受付
 - 夢の島マリーナ係留艇の帰着申告をアトリウムにて受け付ける。
(夢の島マリーナ以外の艇はメールで受付。レース委員会が確認)
 - 都度参加艇の帰着申告は、番号旗・連絡票返還をアトリウムにて戻してもらう。
- ② 片づけ・備品の収納
 - ブイやアンカーは水をかけ、塩分を抜いた後、乾いた頃を見計らって収納する。
 - 備品確認責任者は本部艇搭載品リストによりチェックを行い、レース委員(帆走委員長)に報告、確認を受ける。
* 毎年、重要な備品が紛失しています。備品はレース参加艇の皆さんから提供された大切なものですので慎重に取り扱い、必ず元の位置に収納して下さい。
- ③ 電子機器・通信設備等を担当者に直接返却する。
- ④ SAIL VISIONの航跡放映する(詳細手順は手順書参照)

10. レースレポートの作成

- ① HP掲載用にレースレポート・広報を作製する。
 - WORDで原稿を作製、レース委員会に送付(通常レースは簡単なものでも可)
 - レース中の写真などもレース委員会と確認してHPに掲載する。

以上